

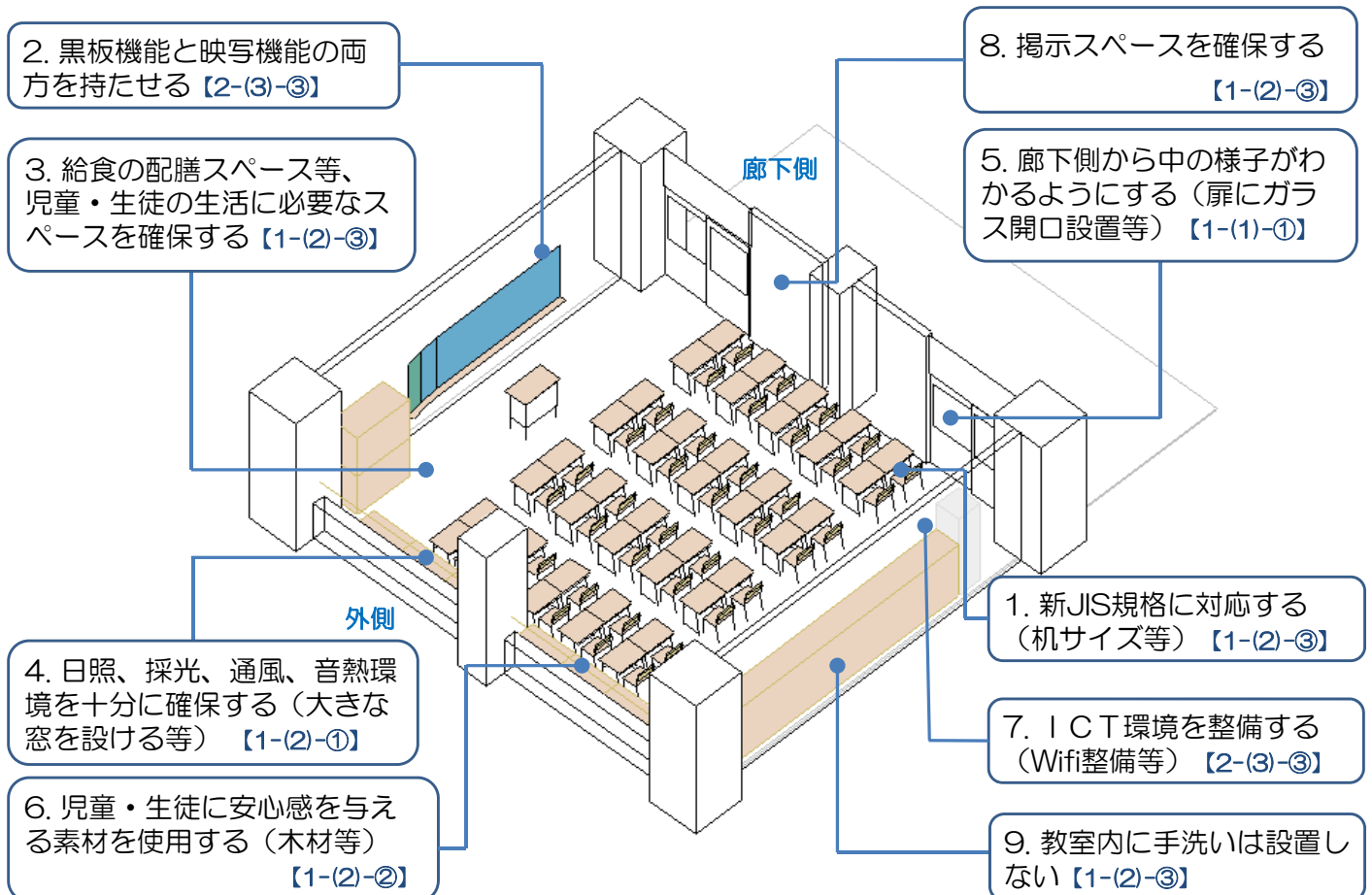
諸室整備方針（案）について

（普通教室・管理諸室・特別教室）

1

普通教室 整備方針（案）

Step1



（注）吹き出しの右下の番号は、関連する全体方針の番号を記載

2

普通教室 標準仕様の基準値設定

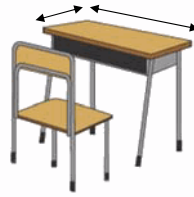
Step2

①通路幅



人が支障なく通れる寸法: 550mm
(出典: 第3版コンパクト建築設計資料集成 / 日本建築学会)

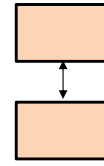
②机サイズ



中学生は小学生と比較して肩幅が約13cm大きくなる。また、学習教材が多いためサイズは大きい。

新JIS規格対応の机
小学校: 650mm × 450mm
中学校: 700mm × 500mm
(府中市・他市学校実績を参照)

③机前後幅



人が座った場合の机と机の前後幅: 500
(オフィス家具メーカーの参考寸法を参照)

④黒板から左右端の机までの角度



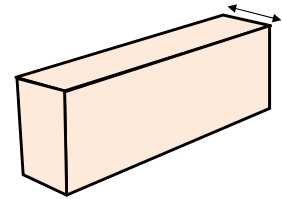
人の視野角: 最大120度
(出典: 第3版コンパクト建築設計資料集成 / 日本建築学会)

⑤車椅子の回転スペース



回転スペース: 直径1,500mm
出入口有効幅: 850mm
(出典: 府中市福祉のまちづくり施設整備ハンドブック/府中市/H23)

⑥収納棚



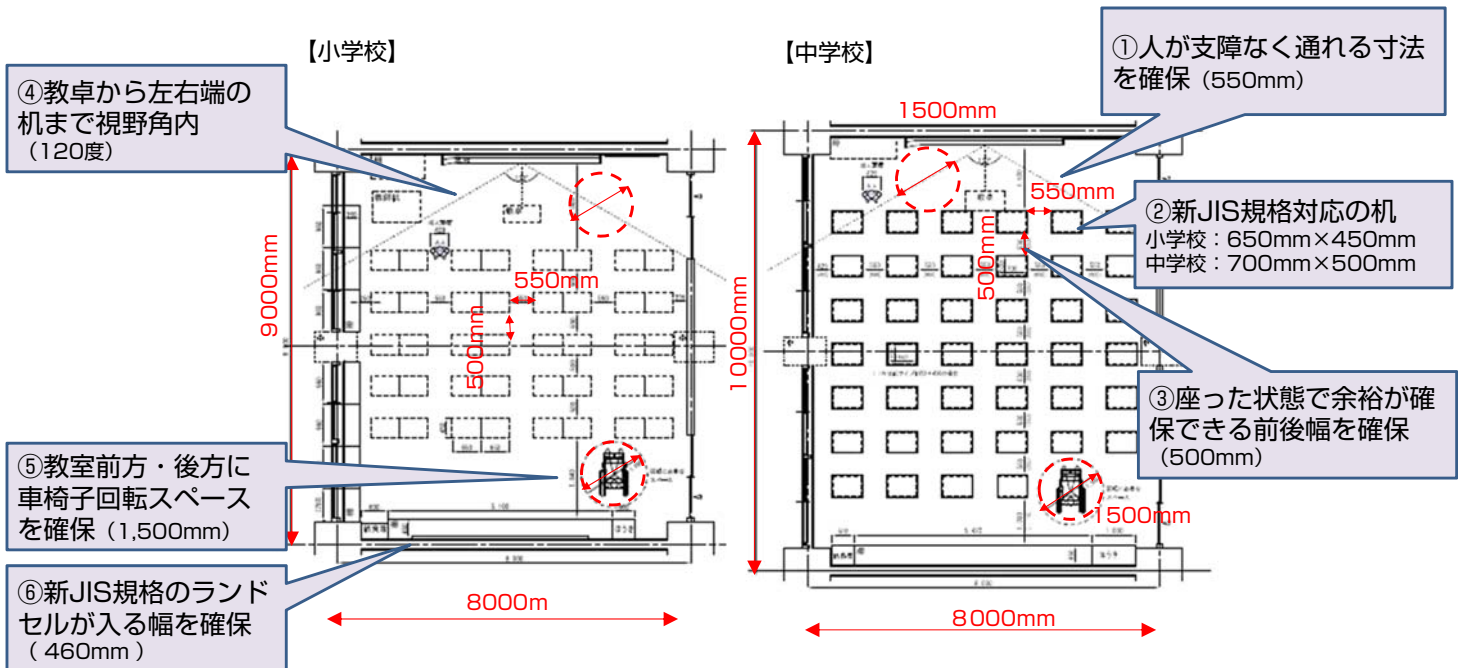
新JIS規格ランドセル対応
小学校: 460mm
中学校: 460mm
(府中市学校実績による)

3

普通教室 標準仕様 (案)

Step2

基準値を積み上げていき、府中市としての教室の大きさを定めます。



旧校舎・新校舎・整備方針の教室サイズ比較

幅(廊下から窓まで) × 奥行(黒板から教室後方まで)

	旧校舎	新校舎	整備方針
小学校	7m×9m【三小】	8m×8m【十小】	8m×9m
中学校	7m×9m【一中】	10m×9m【三中】	8m×10m

※壁芯寸法での記載

4

小学校校長

<普通教室>

- 水飲み場は、児童数に応じて数を増やすことを条件に、廊下が望ましい。
- 廊下側壁にも通気用の窓が必要。
- 教室内ロッカーの他の収納スペースとして、体育着や上着、手提げをかけたも落ちないフックの形状および数を要検討。

中学校校長

<普通教室>

- 給食の配膳台や将来配備される電子黒板のスペースの確保が優先。
- 生徒用ロッカーが後ろスペースだけで40人分確保できるか。また、その容量は十分か。
- 黒板か、ホワイトボードか。

管理諸室の種類

- 校務センター(職員室+事務室)
- 校長室
- 保健室
- 印刷室
- 倉庫・教材室
- 職員更衣室
- 会議室
- 配膳室
- 放送室
- スタジオ
- 用務員室
- 応接室
- 給湯室

なぜ校務センターなのか？

- ①新しい教育方法等への授業改善
- ②いじめや不登校、貧困問題など、学校の抱える課題の複雑化・多様化
- ③子どもと向き合う時間が確保できない



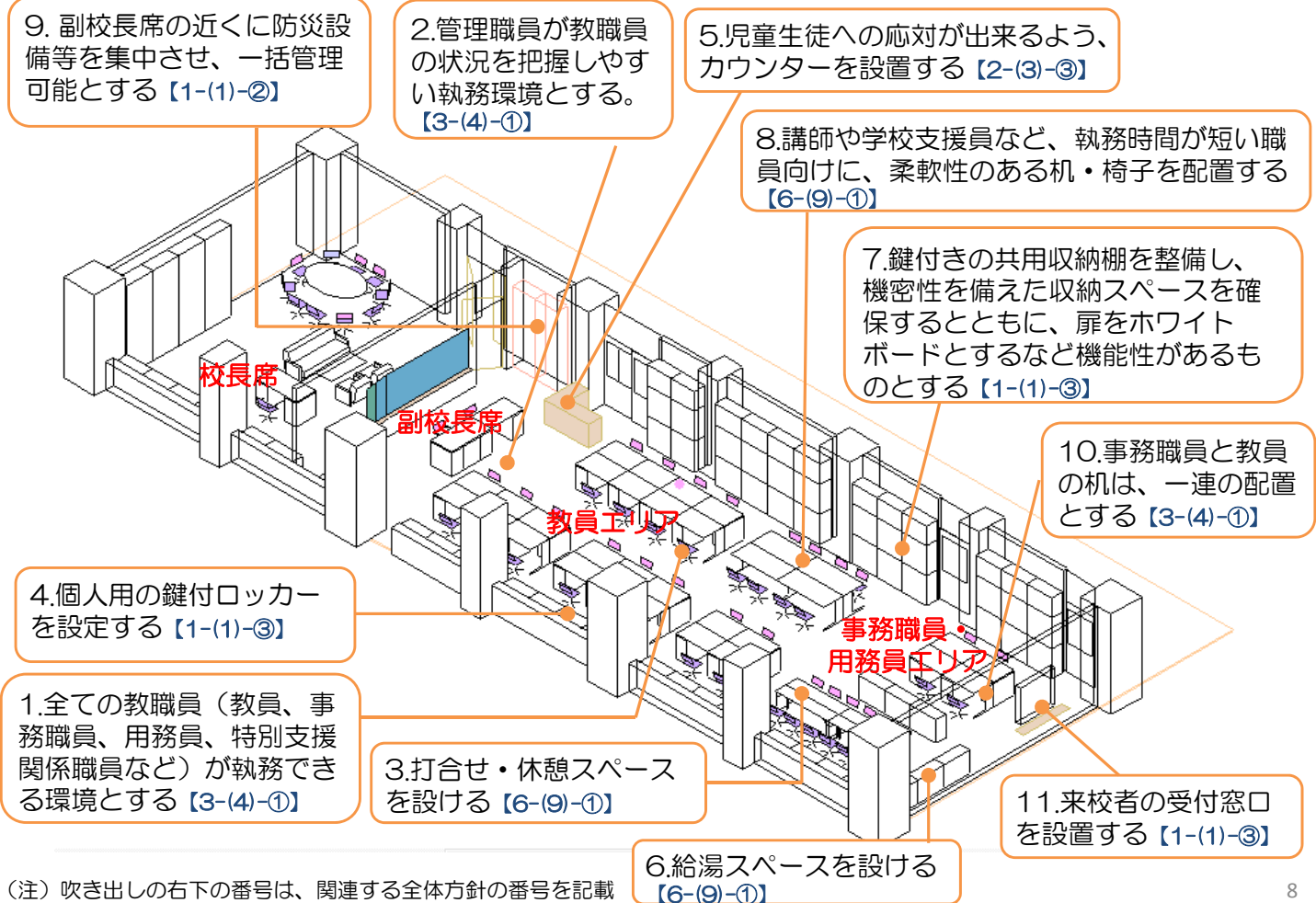
教員、事務職員、用務員に加え、様々な専門スタッフが学校の運営に参画

教職員が執務する諸室の状況は？

	現状	課題	対応方針
① 職員室	<ul style="list-style-type: none"> ①部屋として独立している ②事務室や校長室と隣接していない学校がある ③校舎2階に位置している学校が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ①各部屋がそれぞれ独立しており、また配置がバラバラであるため… <ul style="list-style-type: none"> (1)教員、特別支援関係教員、事務職員が連携を図りにくい (2)学校管理者(校長、副校長)が特別支援関係職員、事務職員、用務員の勤務状況を把握しづらい (3)学校管理者(校長、副校長)が事務職員と来校者との対応状況が把握しづらい ②職員室や事務室が2階にあるため… <ul style="list-style-type: none"> (1)防犯上、教職員が校地内や校門付近の人物を視認しづらい (2)教職員が校舎外へ出る場合と来校者が校舎内へ向かう場合の両方で、移動に負担が生じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教職員(教員、特別支援関係教員、事務職員、用務員)が共通の場所で執務できるよう、全ての部屋を集約化した校務センター方式を採用し、教職員同士のコミュニケーションや情報共有を図りやすくする ・校舎1階に配置することにより防犯性能を向上させ、校舎と校地の移動を簡素化させる
② 特別支援関係職員室	<ul style="list-style-type: none"> ①部屋として独立している ②校長室や職員室から離れた位置に整備されている 		
③ 事務室	<ul style="list-style-type: none"> ①部屋として独立している ②来校舎用玄関が、廊下を挟んだ向かい側に位置している学校がある ③事務室や校長室と隣接していない学校がある ④校舎2階に位置している学校が多い 		

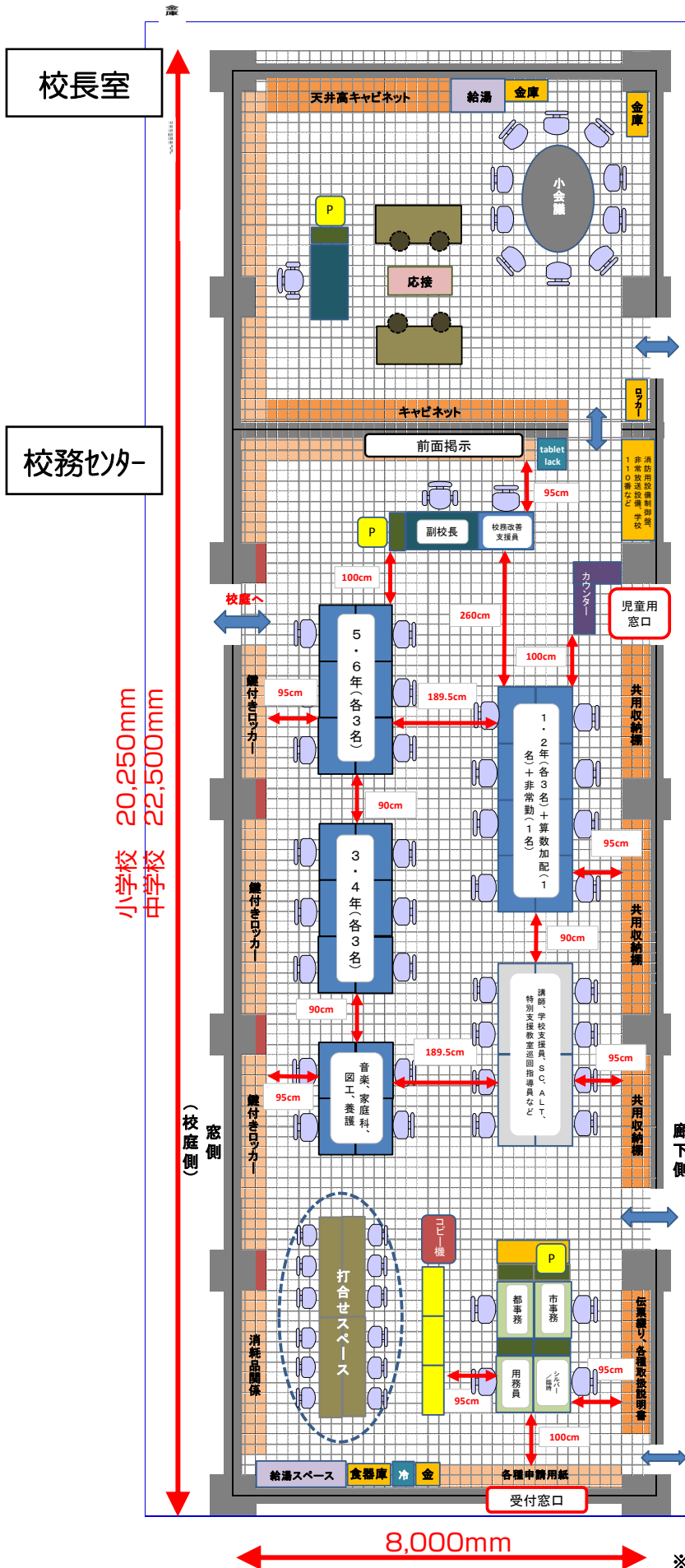
校務センター 整備方針 (案)

Step1



(注) 吹き出しの右下の番号は、関連する全体方針の番号を記載

校務センター/校長室 標準仕様 (案)



校長室サイズ
(普通教室×0.75コマの大きさ)

- ・小学校 : 従来 : 33㎡
→ 整備方針 : 54㎡ (21㎡増)
- ・中学校 : 従来 : 33㎡
→ 整備方針 : 60㎡ (27㎡増)

校務センターサイズ
(普通教室×2.25コマの大きさ)

- ・小学校 : 158㎡ (*)
→ 整備方針 : 162㎡ (4㎡増)
- ・中学校 : 161㎡ (*)
→ 整備方針 : 180㎡ (19㎡増)

(*) 現状の職員室+事務室の合計面積

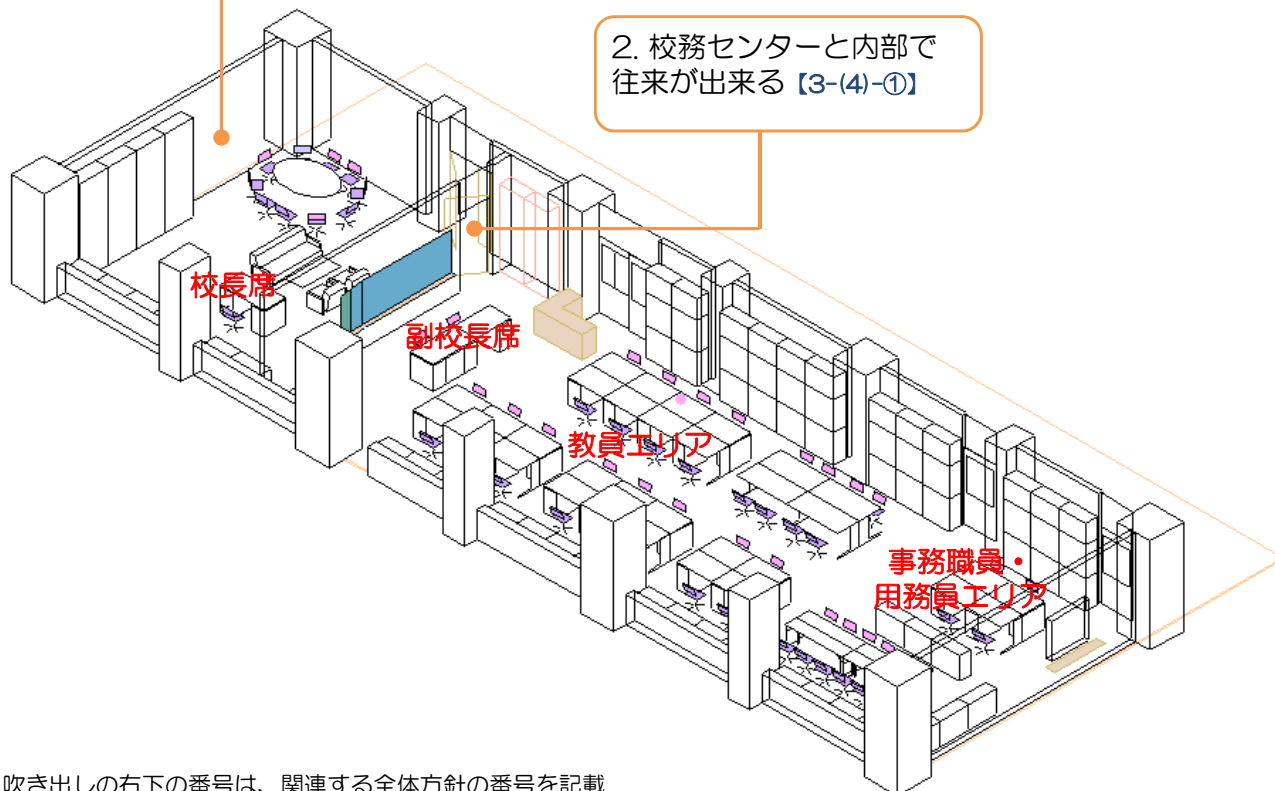
8,000mm ※ 図は小学校18学級の場合

校長室 整備方針（案）

Step1

1. 従来の校長室より大きい広さとし、
応接機能と打合せ機能の両面を確保
する【6-(9)-①】

2. 校務センターと内部で
往来が出来る【3-(4)-①】



（注）吹き出しの右下の番号は、関連する全体方針の番号を記載

10

管理諸室 校長連絡会での意見

Step3

小学校校長

<校務センター>

- 洪水の想定される地区は2階が良いが、すぐに校庭に出られる外階段が欲しい。
- 職員室の給食配膳スペースを確保してほしい。
- 事務職員は電話対応があるため、静かな環境であることも必要。
- 事務職員は職員の個人情報を取扱うので、教職員のスペースとの間に壁が必要ではないか。
- 副校長席の横に校長用机を配置してほしい。

<校長室>

- 小会議は円卓ではなく四角いテーブルで、増設できるようにしたい。
- 応接機能と小会議機能を設けると、動線が狭くなるので、どちらかを選ぶとしたら、小会議スペースが良い。

<用務員室>

- 危険な工具もあるので、施錠が必要。

中学校校長

<校務センター>

- 打ち合わせスペースは、受付窓口のすぐ横ではない方がよい。
- 受付窓口から職員室内すべてが見えない工夫が必要だと思う。
- 生徒用の窓口は複数設置する必要がある。

<その他>

- 表彰関係のカップや旗・地域資料などを展示できるスペースの確保が出来ると良い。

11

特別教室 整備方針（案） 検討に当たっての考え方

Step1

- 学習環境の充実
 - ・児童生徒が使いやすい備品を整備します【1-(2)-③】
- 地域コミュニティの拠点となる学校【4-(5)-①、②】
 - ・学校開放の可能性がある諸室については、校舎1階に優先的に配置します
 - ・避難所開放の可能性がある諸室については、校舎1階に優先的に配置します
- 持続可能な施設整備【5-(6)-③】
 - ・使用率の低い諸室が可能な限り生じないように、機能を適宜集約し多目的に利用できる空間として計画します
 - ・学級数と時間割に基づき教科の授業時間数を計算し、使用率を勘案して必要な諸室数を確保します

12

地域に開かれた学校として

Step1

- ・「避難所開放」と「学校開放」の両方の活用が見込まれる諸室は、優先的に1階に配置し、利便性の向上とゾーニングの実現に努めるものとします。
- ・他の諸室（理科室、コンピュータ室、図書室、図工室、美術室、技術室、教育相談室、進路資料・指導室など）の避難所開放や学校開放については、学校ごとの基本構想の際に、学校関係者や地域の声を確認しながら決定していきます。

< 「避難所開放」と「学校開放」の両方の活用が見込まれる諸室 >

	避難所開放	学校開放
分野	① 体育館だけでは収容できない場合 ② 災害時要援護者のためのスペース ③ 避難所運営スタッフのためのスペース	① 身近な生涯学習の場 （学習、文化、スポーツ、集会） ② 学校と地域との連携・協働の場
	理由	理由
家庭科室	③…炊き出し活動の拠点	①…料理教室など ②…餅つき大会などの行事
会議室	①～③…学校毎に柔軟に使用	①、②…地域住民同士の会合やスポーツ団体の総会など
多目的ルーム	①～③…学校毎に柔軟に使用	①、②…地域住民同士の会合やスポーツ団体の総会（大人数）など
和室（中）	②…災害時要援護者の避難場所	②…伝統文化等の活動（茶道、琴）など

13